

* 忍者とくすりの関わりを知る!! *

その一 過酷な任務を支えた「忍者の常備薬」

忍者の使命は、得た情報を生きて持ち帰ること。その過酷な任務を支えたのが、薬草の活用術でした。身近な薬草を使った腹痛やケガの処置はもちろん、忍術書には、体力を引き出す「兵糧丸」や、喉の渴きを癒す「水濁丸」など、生死の境で編み出された数々の“忍者食”の緻密な製法が残されています。

秘伝の調合、まさにこの通り！



◀ 生薬が多数含まれた兵糧丸の材料



くすりの製法が書かれた当時の忍術書(複製) ▲

その二 火薬も操る「科学者」の顔

甲賀忍者は、火や煙を使う忍術も得意としていました。爆弾のような「焙烙火箭」やモクモク煙を出す「煙幕」など、忍者は、これらを上手く作るために、火薬の種類や量を細かく調整していました。火薬は当時の最先端の技術であり、巧みに調合ができたのは、くすりの知識が応用されたからだと言えます。



複数の火薬を調合して作られた「焙烙火箭」▶



火薬の扱いもおまかせあれ！



その三 潜入の切り札「薬売りの変装」

忍者は情報収集に出かける際、七種類の姿に変装しました。なかでも薬売り(商人)の姿になれば、どこの屋敷にも怪しまれずに忍び込み内部を知ることができます。くすりの文化が地域に根付いていたからこそ、忍者もそれを活用することができたのです。



薬売りは最強の隠れ蓑、間違いなし！



令和の忍者が潜入調査！

特集

忍者とくすりのふか〜い関係



地場産業として薬業が存在感を放つ現在の甲賀市。その歴史をたどると、忍者が命懸けの任務で駆使した「薬草の技」にまでさかのぼります。忍者の知恵は、後に全国に広まる「甲賀売薬(配置売薬)」の源流になり、くすりのまちの礎となっています。

今回は「くすり学習館」への潜入調査を通じて、忍者とくすりの深い関係に迫ります。

潜入先 ▶ 甲賀市くすり学習館

所在地 甲賀町大原中898番地1 (鹿深夢の森西向かい側)

開館時間 9時30分~17時

休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

入館料 無料 問合せ 88-8110



モデル: 樫柏

潜入調査する忍者たち



たかまる
嵩丸

甲賀流忍者調査団員。調査研究や観光振興を通じて、甲賀忍者を盛り上げるべく活動中！



ほくとしろかけ
北斗白影

甲賀流忍者軍団瀬組主宰。古来の忍術の実演やアクションを通じて暗躍中！



あや
樫柏

甲賀市地域おこし協力隊忍者。本物の「のろし」を上げる忍務に取組中。



のわき
野分

甲賀市地域おこし協力隊忍者。東京で忍者の仕事をしてきたが、今年から甲賀市で活動中。